因子得点は，ファイルへは掃きだされず，主記憶内へつくりだされ，クラスター分析が終了するまで主記憶内に存在する．したがって，処理時間が短い．

5.3 繰り返し使用の例

図6は，天井値を50から100まで5きざみずつ増加させながら，11回ロジスティック曲線のあてはめを繰り返す例である．

私用データベース上のデータは，いちど主記憶内へ入力されると，ロジスティック曲線のあてはめを11回繰り返し終わるまで，主記憶内に存在する．したがって，処理時間が短い．

6. 今後の課題

SMS開発後約1年経た現在，つぎのような課題と取り組んでいる．

（1） 制限の緩和
データ量の制限の緩和を検討している．すでに緩和のための対策がきまり，実際の作業をはじめている．

（2） 手法の追加
地域開発用のシミュレーション分析や多次元尺度解析などの追加を検討している．

（3） 時分割方式による利用
SMSを時分割方式によっても利用可能にするため，改造を検討している．SMSのプログラミング言語体系は簡潔であるので，この改造は比較的容易であると思われる．

7. おわりに

SMSの考え方を，今後のORシステムの開発に少しでもお役に立てていただければ幸いである．今後も，OR技術研究組合は，SMSをより使いやすいシステムへとレベルアップしてゆきたい．これに対して，皆様のご意見，ご批判をいただければ幸いである．

（謝　辞）

SMSの開発に参加された下記の6社と，援助をしていただいた通産省に対して感謝させていただきたい．

（株）協栄計算センター
（株）コンピューターエンジニアーズ
（株）都築ソフトウエア
テクノシステム（株）
（株）東京システム技研
（株）東洋情報システム

（50音順）

（ほしの・ぎいち　協栄計算センター　投稿）

編集後記　▼学会も先月創立20周年を迎えましたので，今月号は創立記念号です．▼10周年のときは10年をふりかえって各分野での発展の跡を辿りました．そのときは，日本におけるOR発達史の資料にも，……という気持があったようです．▼20周年は，OR事典に歴史資料もあることなので，むしろこれからを展望しよう，ということになって「これからのOR」をテーマに特集したわけです．▼座談会もいろいろの案がありました．しかし，もっとも根元的なところで今後の発展のキッカケをつくる，というために，発想にピントを合わせ，学界外の方にORにとらわれずに話していただくのが，いちばん趣旨に合うだろう，ということで今回の座談会が計画されたのです．▼私も座談会を傍聴していながら，整理のために読みなおしても，まったく飽きることを感じませんでした．たぶん皆様にもご満足いただけ，かつこれからの活動になんらかの刺激になったのではないか，と思っております．▼20周年を記念して募集した懸賞論文の入選作3篇も掲載いたしました．▼これからのORを飛躍的に発展させ，社会に役立たせるために，今，われわれは何をなすべきか，という課題になんらかの指針を与えてくれるでしょう．▼今こそORの出番，と各方面から待たれているようです．皆さん，頑張りましょう．（H）

オペレーションズ・リサーチ

昭和52年7月号　第22巻（新シリーズ第2巻）7号　通巻199号
代表者　北川一栄
発行所　社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
〒113　東京都文京区弥生2—4—16　学会センタービル
（電話　03-815-3351～2）
編集人　奥野忠一
発売所　株式会社　日科技連出版社
〒151　東京都渋谷区千駄ケ谷5—4—2
定価　600円（郵送料含）年間予約購読料 6,600円（郵送料含）

本誌の直接ご注文は
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

本誌への広告お申し込みは日経弘報社(563-2241)，明報社(571-2548)へ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．